

# 風しんについて

資料 2 - 1

## 概要

- ① 症状 : 発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とする。**無症状 (15~30%)** ~ 重篤な合併症併発まで幅広い。
- ② 合併症 : 血小板減少性紫斑病 (1/3,000~5,000)、急性脳炎 (1/4,000~6,000)、関節炎など。  
妊娠中の女性が感染すると児に**先天性風しん症候群(CRS)**が出現。
- ③ 潜伏期間 : 14~21日間
- ④ 感染経路 : 飛沫感染。感染力が強い※ (**発症約1週間前~発疹出現後1週間程度感染力**がある)。
- ⑤ 治療・予防 : 対症療法のみ。予防にはワクチンが有効。

## 先天性風しん症候群 (CRS) とは

※基本再生産数( $R_0$ ): 5-7 (インフルエンザは1-2)

基本再生産数とは、1人の患者から免疫がない何人に疾病をうつしうるかを示す数字

風しんに対して免疫のない女性が、特に妊娠初期に罹患した場合に出生児に引き起こされる障害。先天性心疾患、難聴、白内障が三大症状。他、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたる。

## 風しん対策の概要

「風しんに関する特定感染症予防指針」 (平成26年厚生労働省告示第442号、平成30年1月1日一部改正)

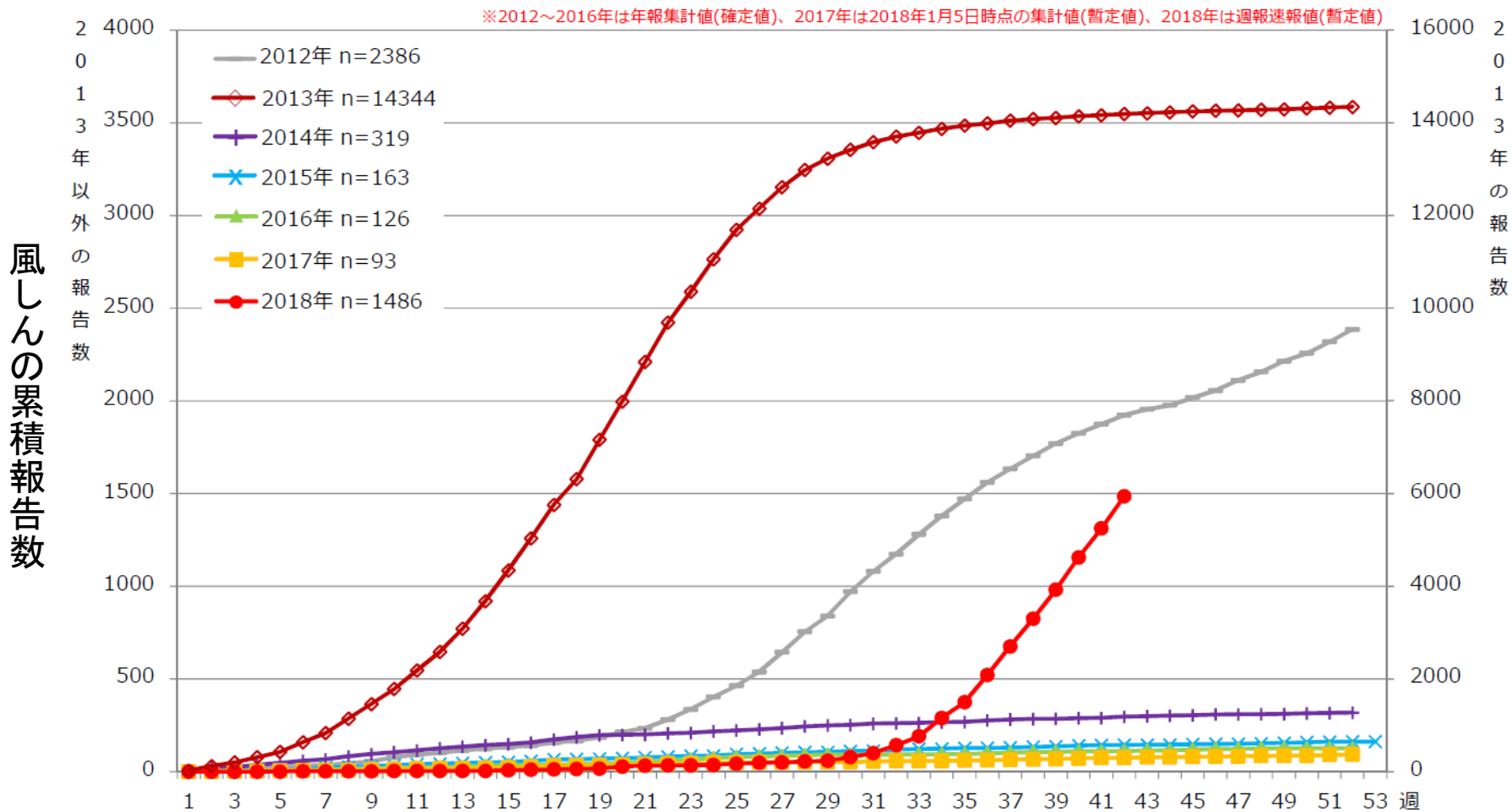
- **目標** : CRSの発生をなくすとともに、2020年までに風しんの排除を達成する。
- **定期予防接種の実施** : 定期接種率の目標をそれぞれ95%以上とする。(平成28年度: 第1期 97.2%、第2期 93.1%)
- **抗体検査・予防接種の推奨** : 普及啓発、自治体に対する抗体検査補助事業を実施。
- **自治体に対する技術支援** : 風しん発生手順の手引き等を作成し、自治体に配布。
- **麻しん・風しん対策推進会議の開催** : 施策の実施状況に関する評価、必要に応じた当該施策の見直し。

## 風しんとCRSの発生報告数の年次推移

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
風しん(定点)	2,972	3,123	2,561	2,971	2,795	4,239	895	509	463											
風しん(全数)										294	147	87	378	2,386	14,344	319	163	126	93	1,486
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0

【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。2017年は週報速報値(暫定値)、2018年は10月24日時点の暫定値。

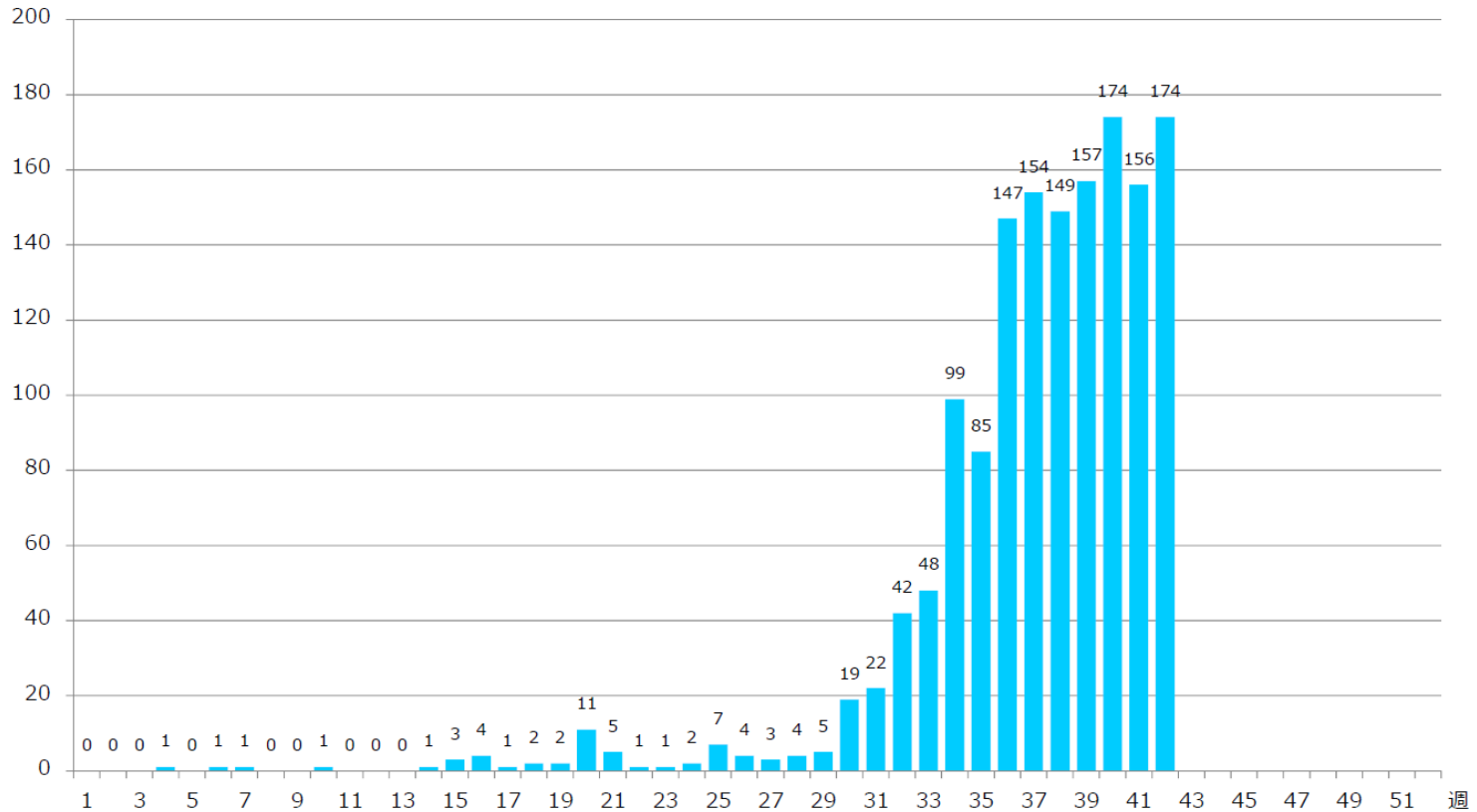
# 風しんの累積報告数の推移 (2012年第1週～2018年第42週)



# 風しん報告数

2018年第1週～第42週、n=1,486 (2018年10月24日現在暫定値)  
(1月1日～10月21日)

風しん報告数



【風しん・CRSの発生報告数の年次推移】CRSは1999年4月～開始(2006年の報告から感染地域が報告対象となった)

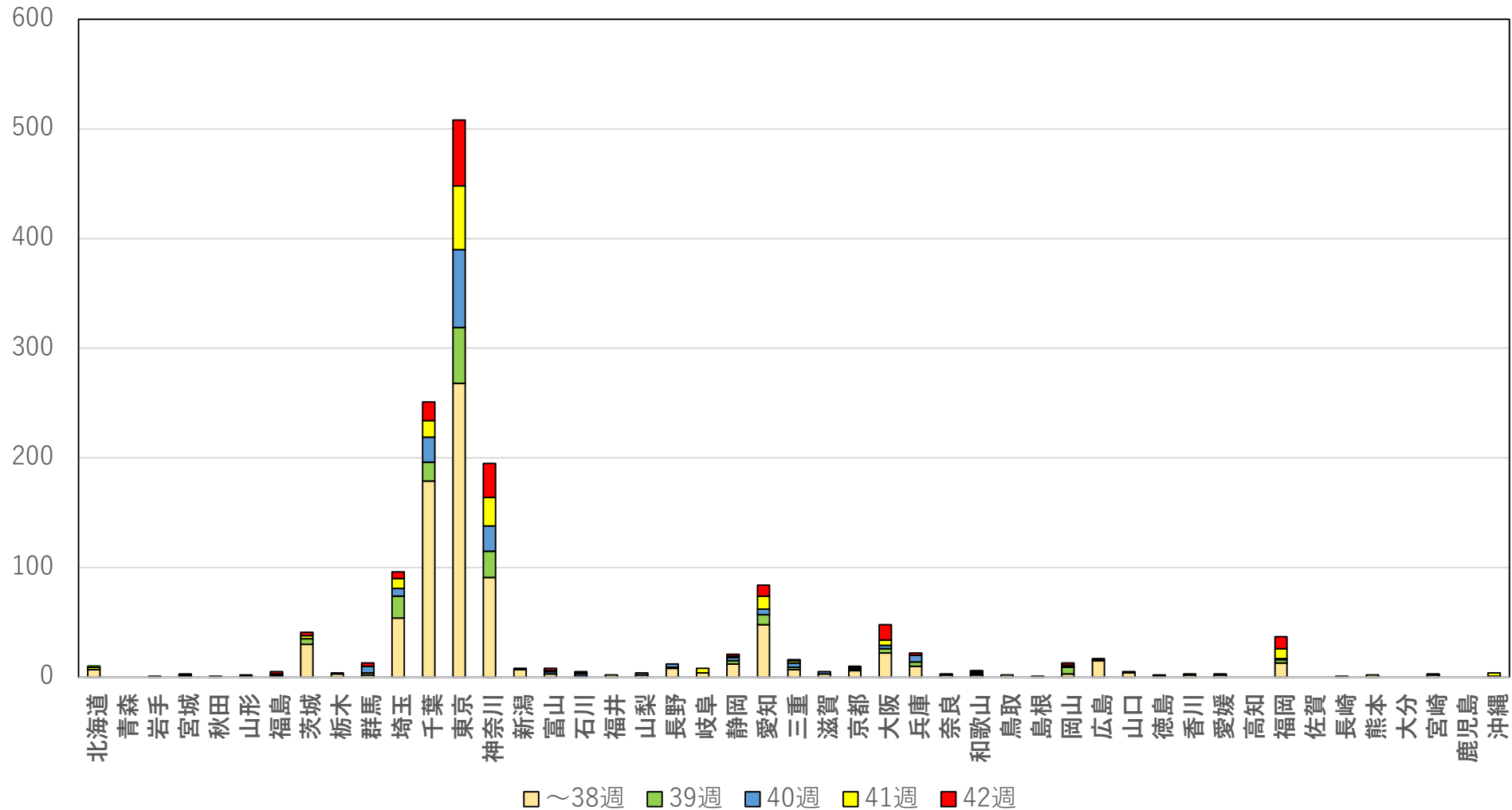
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
風しん										294	147	87	378	2386	14344	319	163	126	93	1,486
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0

国立感染症研究所の感染症発生動向調査。2018年は10月24日現在の暫定値

# 都道府県別 累積風しん報告数

2018年第1～42週 (n=1,486)

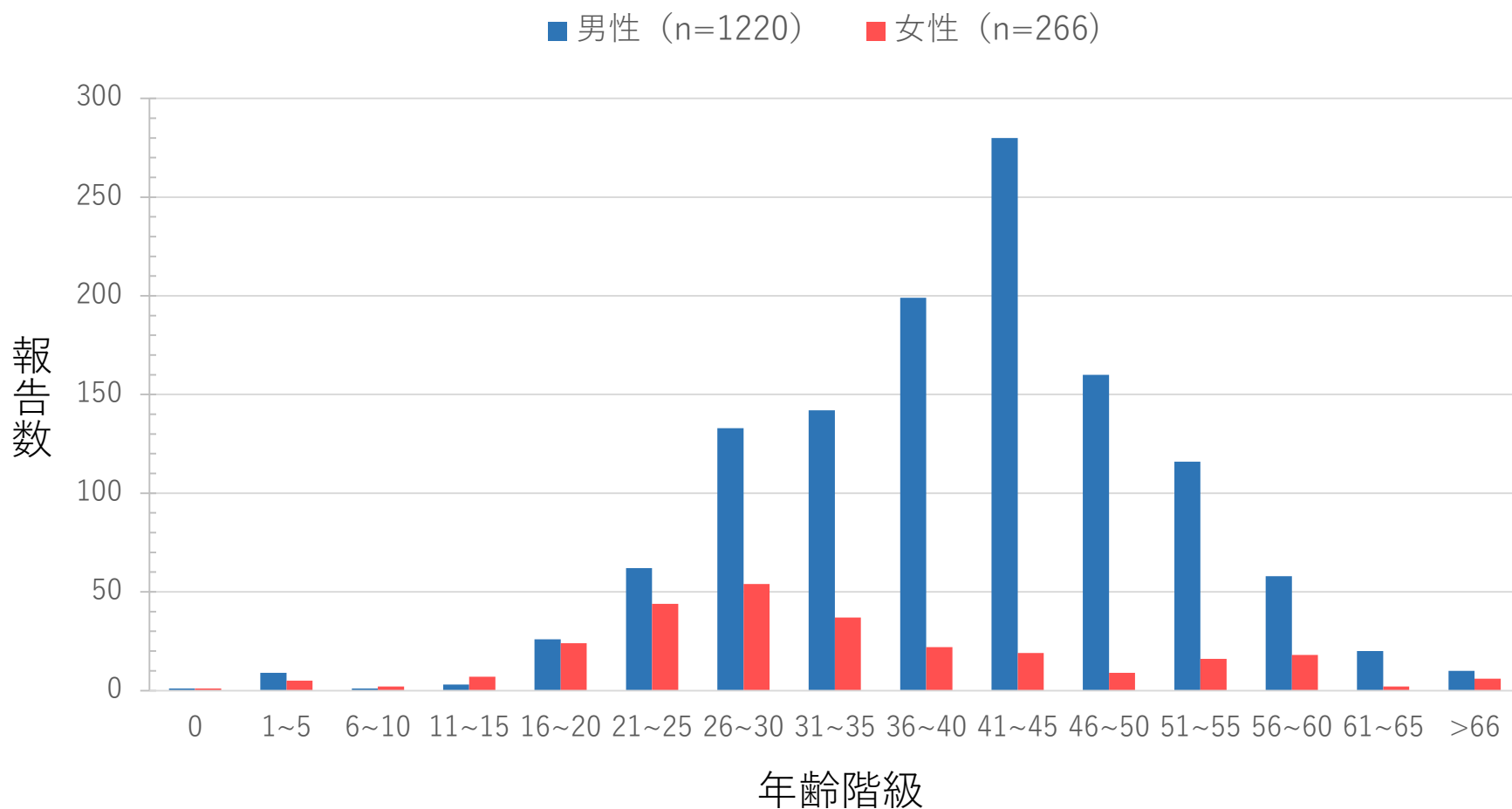
2018年10月24日現在暫定値



【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。

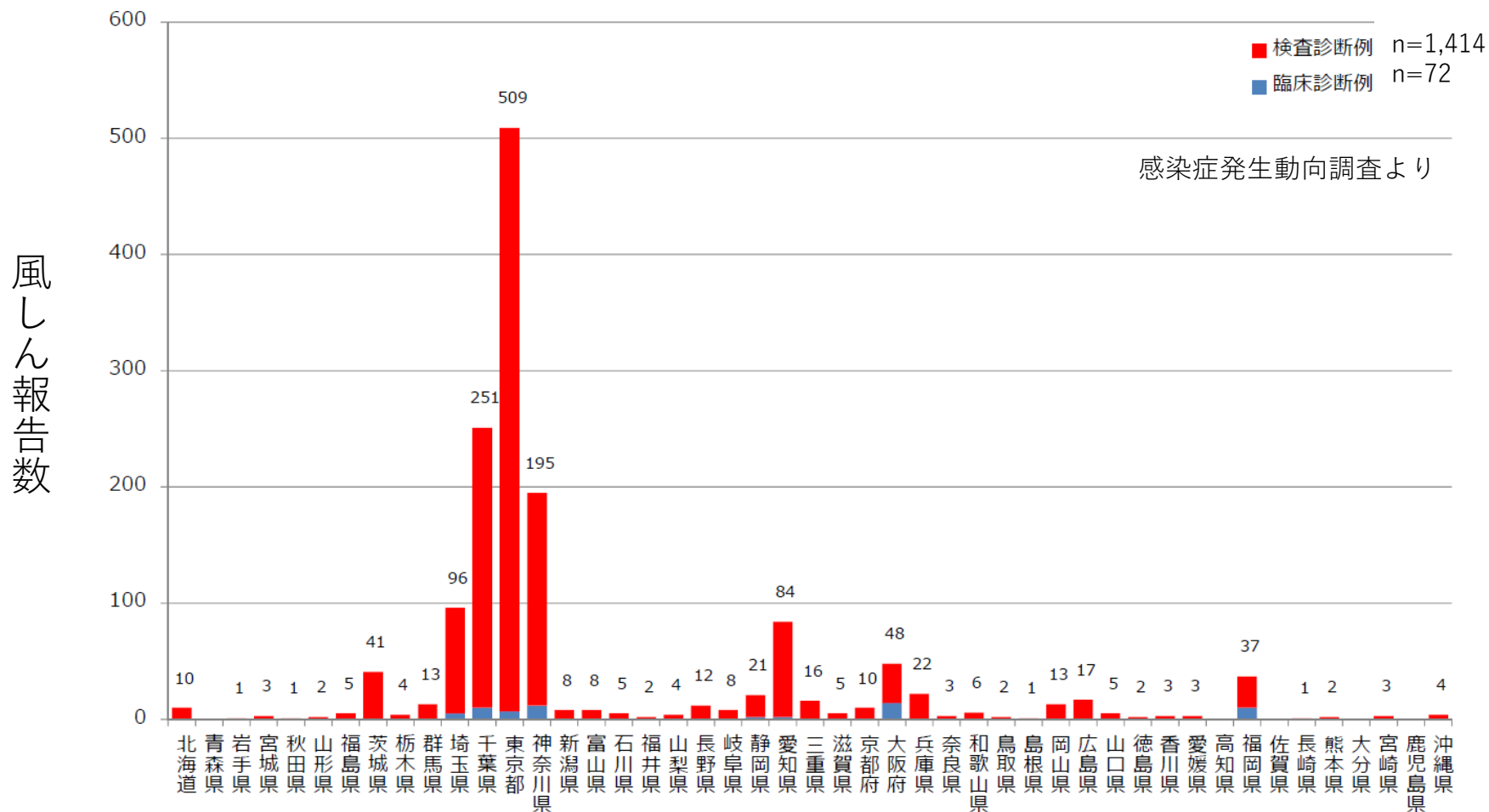
# 風しん検査診断例報告数 (性・年齢階級別)

• 2018年第1~42週 (n=1,486) 2018年10月24日現在暫定値



# 都道府県別・病型別風しん累積報告数

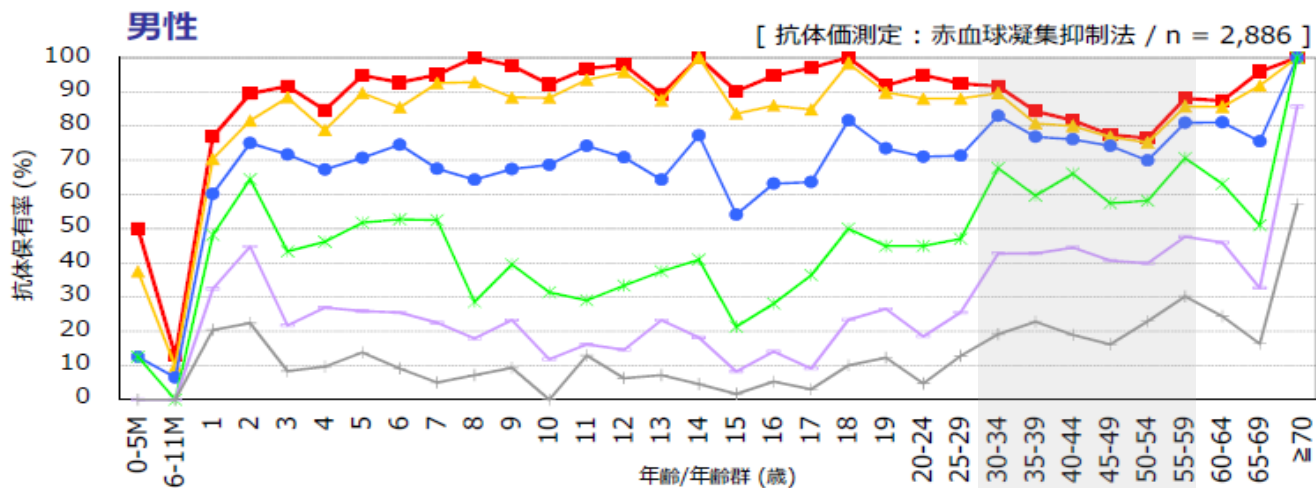
2018年第1~42週 (n=1,486) 2018年10月24日現在暫定値



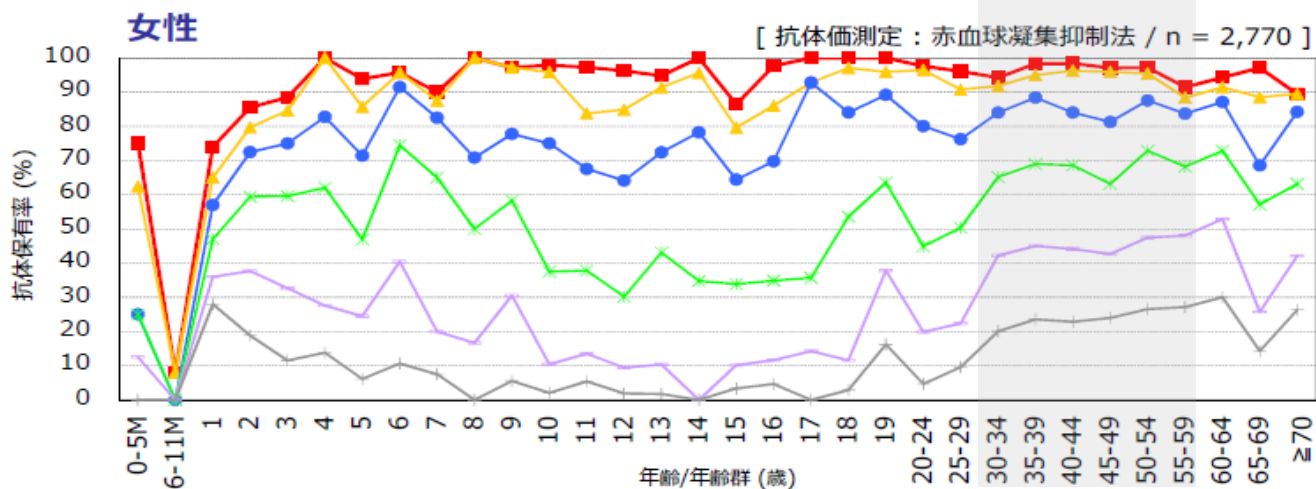
※都道府県別風しん報告数

**第42週 (n=174)** : 東京都 (n=61)、神奈川県 (n=31)、千葉県 (n=17)、大阪府 (n=14)、福岡県 (n=11)、愛知県 (n=10)、埼玉県 (n=6)、茨城県・群馬県・(各n=3)、福島県・富山県・静岡県・兵庫県・岡山県 (各n=2) 北海道・石川県・三重県・京都府・和歌山県・広島県・山口県・愛媛県 (各n=1)

# 年齢・年齢群別の風しん抗体保有状況 (2017年)



※≥70歳群は10名未満の結果



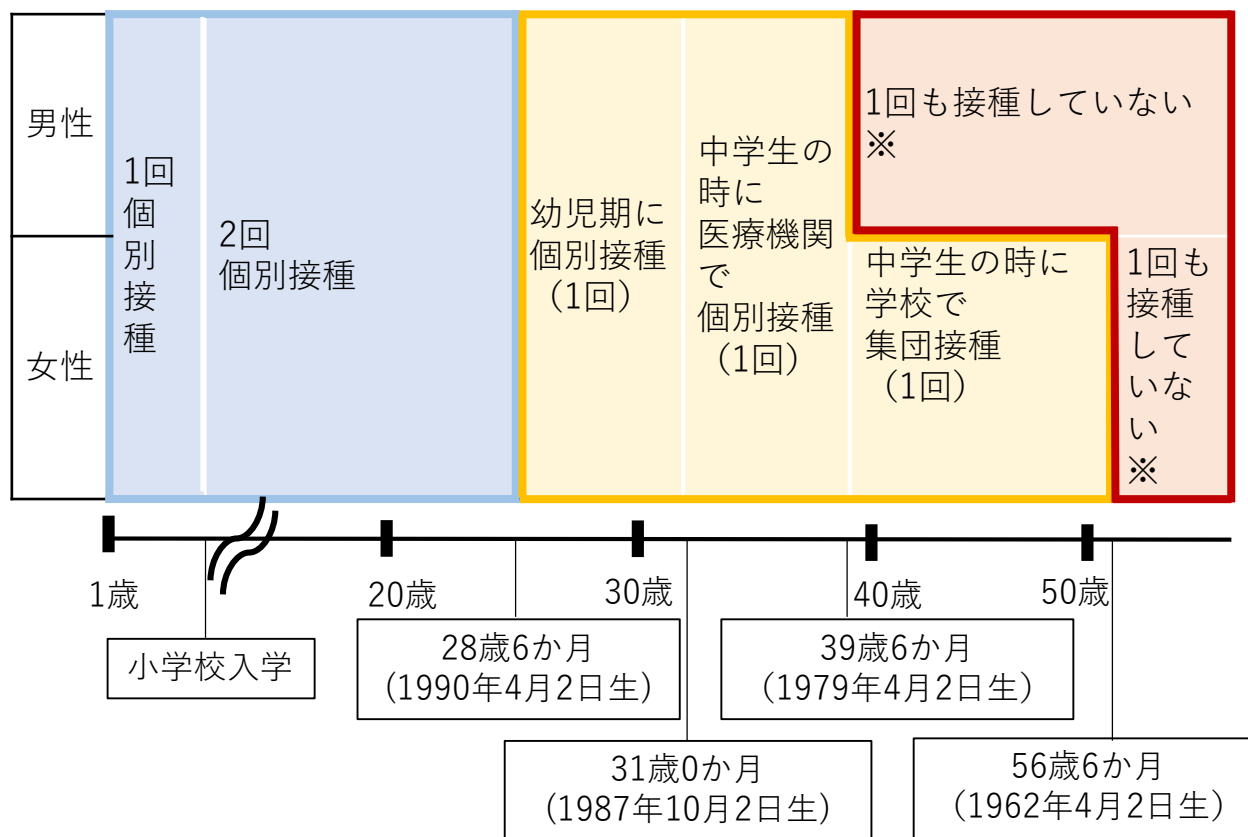
※0-5か月群は10名未満の結果

抗体価    ■ ≥1:8    ▲ ≥1:16    ● ≥1:32    × ≥1:64    \* ≥1:128    + ≥1:256

流行予測2017

# 年代別で見る風しんの予防接種制度の変遷

- 39歳6ヶ月以上の男性と56歳6ヶ月以上の女性は、定期の予防接種に基づく風しんのワクチンの接種機会がなかった。（2018年10月1日時点）



2018年10月1日時点



# 風しん対策について

## 経緯

- 関東圏を中心に風しん患者の増加が続いている状況を踏まえ、厚生科学審議会感染症部会（9月27日）で今後の風しん対策について専門的に議論。
- その結果、出生児の先天性風しん症候群（CRS）を防ぐために早急に対応することが必要であるとの意見や、御議論いただいた必要な対応策を受け、以下の取組みを行う。

先天性風しん症候群（CRS：Congenital Rubella Syndrome）とは  
風しんに対して免疫のない女性が、特に妊娠初期に罹患した場合に出生児に引き起こされる障害。先天性心疾患、難聴、白内障が三大症状。

先天性風しん症候群の児に見られる主な症状



## 当面の対応

先天性風しん症候群を防ぐために、特に風しんの届出数が増えている東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県及び愛知県の5都県において、現在の流行の状況を踏まえ、

- 風しんの症状や感染力、妊婦への影響等について正しく理解いただくとともに、

『妊娠を希望される女性』、『妊娠されている女性及び同居のご家族』に抗体検査を受けていただくよう周知。

※現在、多くの自治体では、抗体検査を無料で実施できる事業等を提供中。  
事業の利用方法等については、各地域の保健所で相談を受け付けている。

- 『妊娠を希望される女性』、『妊娠されている女性の同居のご家族』に抗体検査を受けていただき、検査の結果、風しんに対する抗体価が低かった方が適切に予防接種を受けられるよう環境の整備に取り組む。

<抗体検査・予防接種の流れ>

